

季節の気象にまつわる言葉

春

桜にまつわる言葉

花便り

花の咲いた様子を知らせる便り。桜の花をさすことが多く
かしん
花信ともいう。

はながすみ 花霞

満開な桜が遠目には霞のようにあわく見えること。

花明り

桜が満開で日が暮れてもほのかに明るく感じられること。

夏

風にまつわる言葉

あおあらし 青嵐

5月から7月ころに吹き渡るやや強い風。
『せいらん』ともいう

かぜかお 風薫る

初夏、青葉の中をさわやかな風がふくこと

秋

月にまつわる言葉

望月

十五夜の月。満月。特に旧暦8月15日の夜の月のことをいうこともある。

有明の月

夜が明けてもまだ空に見える月。残月。
朝月などともよばれる。

ほしづきよ 星月夜

星が輝き、月が出ているかのように明るい夜。
『ほしづくよ』ともいう。

冬

雪にまつわる言葉

りっか 六花

雪の異称。『むつのはな』『ろっか』ともよばれる。

ささめゆき 細雪

細かい雪や、まばらに降る雪

ゆきあかり 雪明り

積もった雪の反射により、夜も周囲が薄明るく見えること。